

---

# 倫理

## 第1回

## 入門

## 入門講座 何をどう学ぶのか

## 今回学ぶこと

「倫理」という言葉は、どういう意味なのだろうか。授業科目としては、何をどのように学ぶのだろうか。「倫理」の学習では、人名の暗記や学説の理解にとどまらず、人生や社会、世界についての、さまざまな考え方を知って、自分に合った考え方を発見していくことが大切であり、自分の考え方や人生の幅を広げ、深めていく科目であることを実感していこう。



講師

小林和久

## ■ 倫理とは何か ■

日常耳にする報道でも「政治倫理が問われる」などと使われる「倫理」という言葉。そもそもどのような意味なのだろうか。

「倫理」の「倫」という文字は「仲間」や「人間集団」を意味し、「理」という文字は「ものごとの正しい順序」や「不変の法則」を意味する。したがって、「倫理」とは、もともと「人間関係の法則」、「人間社会の秩序」、「社会の中で守るべき道」という意味の言葉である。

私たちに好きな食べ物がいろいろあり、他の人にそれが合わなかったりするように、私たちの生き方や考え方もさまざまである。私たちが、誰か他の人といっしょに生きていく限り、いつか直面するであろう人生についての究極の問題、例えば、「自分とは何か?」、「正しいことは何か?」、「人間とは何か?」、「生きる意味は何なのか?」などについて考えることが「倫理」でもある。

## ■ ■ 倫理で何を学ぶのか ■ ■

私たちは成長するにつれて多くの人と出会い、さまざまなことを経験し、悩んだり考えたりすることも増えていく。「倫理」で学ぶことは、そんな時に考える助けになることである。

まずは、悩んだり考えたりする自分とは何かについて、若者に特有の心の状態を学ぶ。そして、人類が人生や世界の問題について考え記録し始めた最初の頃、今から 2,500 年以上も昔の哲学や宗教の考え方を学んで、さらに、自由・平等や民主主義の考え方が広まる近現代の思想や、日本人のものの考え方の特徴を学んでいく。最後に、学習の総まとめとして、生命の問題や環境問題、国際平和など、現代の課題について倫理的に考えていく。

このように、大昔から現在まで、日本を含めて東洋から西洋まで、人の生き方や社会のあり方について、さまざまな考え方を学んで、自分の生き方や考え方にどう生かすかを考えていくことが「倫理」の学習である。

## ■ ■ 倫理の学び方 ■ ■

他の教科・科目と同じように、人物の名前を覚えたり、学説を理解したりすることが必要になることが多いが、「倫理」の学習はそれだけでは不十分である。学んだことを、自分の日ごろの考え方や生活に結びつけて理解しようとしたり、日ごろの生活の中で生かしたり応用したりすることが大切である。放送を聞くだけでなく、教科書を読んで理解しようとしたり、さまざまな本を読んだりインターネットで調べたりして理解を深めていくと、学習の面白さが一層増すはずである。想像力を豊かにして、放送や教科書の内容を考えたり、調べたりすることは、自分自身のものの考え方や人生の幅を広め、深めていくことにつながる。